
年 組 名前

次の（ ）に入る言葉をスライドプリントから探して記入しましょう（50点満点）

<消化器系 消化>

1. 消化とは、生体に必要な水分や（ ア ）などを供給し、不要となった代謝産物を排出することであり、摂取した飲食物を（ イ ）から吸収しやすい小さな分子に変えていく働きのことをいう。
2. 消化の種類には、物理的な力による食物の分解である（ ウ ）消化と消化酵素の働きによる分解である（ エ ）消化がある。
3. 機械的消化の種類には、咀嚼、嚥下、（ オ ）、分節運動、振り子運動、逆蠕動などがある。
4. 咀嚼とは、かみくだきのことであり、下顎を動かし、歯で食物をかみ砕いたり、すり潰したりしながら、舌や口唇、頬の運動によって食物を（ カ ）の方向に送ることであり、これは（ キ ）運動として意識的に行えるものである。
5. 嚥下とは、食物を飲み込むことをさし、嚥下運動は（ ク ）にある嚥下中枢によって調整されている。
6. 嚥下運動の第1相である口腔咽頭相は、（ ケ ）運動によって意識的に行われるが、第2相、第3相では、（ コ ）運動によって反射的に行われる。
7. 大腸の運動である（ サ ）は、肛門側より口側に向かう蠕動であり、この運動の間に、糜粥の混和や水分、電解質の吸収が行われる。
8. 化学的消化に必要な消化酵素とは、唾液、（ シ ）、（ ス ）、胆汁の4種類である。
9. 唾液を分泌する腺は、（ セ ）、顎下腺、舌下腺の3種類である。
10. 唾液には、食物に滑らかさを与えて、ひと塊りにし、（ ソ ）しやすくする機能や、食物を味蕾と接触させたり、口腔内の清潔や粘膜を守るなどの働きがある。
11. 唾液には、唾液アミラーゼ、粘液性の（ タ ）、ライソザイムが含まれる。
12. 唾液に含まれる唾液アミラーゼは、プチアリンともいい、（ チ ）をデキストリンや麦芽糖に分解する働きをする。
13. 胃液の主要成分は、（ ツ ）、塩酸、ムチンであり、塩酸は、胃内容を強い（ テ ）にする働きをもつ。また、ムチンは胃粘膜の表面を機械的、化学的な刺激から保護する働きをもつ。
14. 胃液の分泌は、（ ト ）、胃相、腸相の3相に分けられる。（ ナ ）とは、味、におい、視覚、連想による刺激によるものであり、胃相とは、胃に入った食物の胃壁刺激によるものである。（ ニ ）と胃相はそれぞれ胃液の分泌を（ ヌ ）する。一方、腸相は、十二指腸粘膜に食物が接触することによって分泌されるホルモンによって胃液の分泌は（ ネ ）される。
15. 胆汁は、無色透明の液体であり、（ ノ ）を示す。また、三大栄養素である（ ハ ）・脂質・（ ヒ ）

の消化酵素を全て含んでいる重要な消化液である。

16. 胆汁には、(フ)、電解質、コレステロール、(ヘ) が含まれ、総胆管出口にある (ホ) の弛緩と収縮により分泌が調整されている。

17. 胆汁酸塩の働きは、脂肪滴を (マ) し、膵リパーゼと脂肪の接触する面積を広げることで、(ミ) が作用する面を大きくすることである。

<吸収のしくみ>

1. 胃において吸収はほとんど行われず、炭水化物、脂肪、タンパク質の吸収は、大部分が (ム) で行われる。大腸においては、(メ) と電解質の吸収が行われる。

2. デンプンは、(モ) にまで分解されて吸収され、脂肪は、(ラ) とモノグリセリドにまで分解されて吸収される。タンパク質は、最終的に (リ) に分解され、吸収される。

3. 消化液の作用のうち、口からは唾液が (ル) を消化し、胃からは胃液が (レ) を消化する。また、肝臓からは胆汁が生成され、(ロ) を消化する。

<肝臓の働き>

1. 肝臓の働きは、物質代謝、(ヤ)、ホルモンや薬物などの処理、赤血球の処理、ビタミン代謝である。

2. 肝臓における糖質の物質代謝とは、ブドウ糖を (ユ) として蓄え、必要時にはブドウ糖に分解し、血液中に送ることである。

3. 肝臓におけるタンパク質の物質代謝では、血漿タンパクである (ヨ) とフィブリノーゲンをつくる。

4. 肝臓における脂肪の物質代謝は、(ワ) の合成と分解および、脂肪酸から (ヲ) を生成することである。

<排便・看護>

1. 内肛門括約筋は、排便反射によって調節される (ア) であり、外肛門括約筋は、意識的に弛緩・収縮させることができる (イ) である。

2. 便秘の予防には、(ウ) に気をつける、適度な (エ) をする、正しいトイレ習慣をつける、ストレスをためないなどがある。

3. 口腔機能や健康を維持し、誤嚥性肺炎を予防するためには (オ) が有効である。